

議 長	会議を再開します。 (午後 1 時 4 5 分)
々	これより、高良議員の一般質問を行います。
高良議員	高良議員。
5 番 高良議員	<p>5 番議員の高良でございます。昨年ちょうどこの 6 月議会に、4 年ぶりにこの席に立たせていただきまして、昨年は川本町の堤防の話と人口減少についての質問をさせていただいたわけですが、弓市堤防につきましては、町長、議長の、この町単独要望によりまして一歩進んだという報告を受けております。ただ、もうひとつの人口減少の問題につきましては、多々問題がありますので、その点を今日、再び一般質問でお聞きしたいと思っております。</p> <p>質問の要旨ですが、人口減少に伴い発生する諸問題について問う、でございます。</p> <p>日本は、今、人口減少、国全体が人口が減少に転じております。この川本におきましても、1960年には9,000人、9,600人ぐらいありました人口が、いよいよ3,000人を切ったというのが現況でございます。また、家の世帯数も昨年お聞きしましたように、定住住宅等の建設で増えてはおるものの、全体としては1,800戸から約1,600弱という数まで減っております。これらのことを考慮しまして、以下、5つの質問をしたいと思っております。</p> <p>積雪時の除雪車両のオペレーターの確保は十分か、また除雪にかかる時間及び日数の目安はどのくらいか。</p> <p>2、現在、小学生の登校にはスクールバスを運行しているが、この後、運転手の確保ができるのか、もしできない場合はどのような対応するのか。</p> <p>3、今後、人口減少により限界集落が増加すると見込まれるが、それに伴い、民生委員に相談することも増えると思われませんが、民生委員のなり手不足の現状にどう対処するのか。</p> <p>4つ目、令和14年度に向けて小中学校の建設が検討されているが、学校を建設するにあたり、1学年の児童数を何人と想定しているのか。</p> <p>5、今後、空き家の増加も見込まれるが、空き家対策として町がどこまで関わっているのか、以上でございます。</p>
議 長	それでは、高良議員の質問に対する答弁を求めます。 瀬上総務財政課長。
番外瀬上総 務財政課長	<p>高良議員の、人口減少に伴い発生する諸問題について問う、にお答えいたします。</p> <p>最初に、ご質問の1項目めの、積雪時の除雪車両のオペレーターの確保は十分か、また除雪にかかる時間及び日数の目安はどのくらいか、についてお答えします。</p>

番外瀬上総
務財政課長

町が行う除雪について、自社所有・町等が所有する車両を含め、18台で行っており、その台数分ほどオペレーターが必要なため、不足している状況であると認識しております。次に、除雪にかかる時間及び日数について、令和6年度の実績から、町内全域における除雪として、18台で実施し、1日あたりの総作業時間が136時間、1台あたり平均8時間となり、概ね1日で除雪が完了となっております。

次に、ご質問の2項目め、現在小学校の登校にはスクールバスを運行しているが、この後、運転手の確保はできるのか、もしできない場合は、どのような対応をするのかについてです。現在、全国的に運転手不足が深刻化しており、町におきましても、同様に高齢化や人手不足が影響し、運転手確保に苦心しております。町といたしましては、スクールバス運転手の重要性を広く発信するなど、子どもたちの安全な通学を守るために安定した運行ができるよう、運転手確保に努めるとともに、デマンド乗り合いタクシーも含めた公共交通の在り方検討の中で、スクールバスの効率的な運営についても検討してまいります。

次に、ご質問の3項目め、今後、人口減少により限界集落が増加すると見込まれるが、それに伴い民生委員に相談することも増えると思うが、民生委員のなり手不足の現状にどう対処するのか、についてお答えします。民生児童委員とは、民生委員法に基づき、厚生労働大臣の委嘱を受け、地域の担い手として活動していただいています。民生委員は、同じ地域で生活する住民の一員として、住民からの様々な相談に応じ、必要な支援を地域の専門機関へのつなぎ役としての役割を担っています。また、児童福祉法に定められた児童委員を兼ねており、子どもや子育て家庭の相談支援とともに、児童の健全育成にあたっています。また、民生委員・児童委員のうち、子ども子育てに関する支援を専門に担当する主任児童委員がいます。本町では、現在、22名の民生児童委員がおられ、担当地区で活動いただいておりますが、近年の相談支援対応は、令和6年度が363件、令和5年度が507件、令和4年度が451件と年度によって増減があると伺っております。

また、任期は3年とされており、本年度は改選の年であり、全国一斉に改選が行われますが、6月3日に開催しました自治会長会議において、各自治会に対して適任者の推薦依頼をお願いしたところですが、選出が難しいなどの声が多く聞かれました。なり手不足の課題の1つとして、民生児童委員の活動の認知が低いことがあると考えられますので、地域のための活動をPRしていくことで、関心を喚起すると同時に、心理的なハードルを下げられるよう、広報等を活用して周知を図りたいと考えています。また、選出が難しい地区については、町としても民生児童委員協議会とも連携し、協力してまいります。なお、なり手不足の対策として、担当の地区割りの変更も検討課題であると認識しておりますが、委員1人あたりの負担とのバランスも考慮する必要がありますので、他自治体の事例なども参考にしながら、次回の改選までに検討したいと考えています。

番外瀬上総
務財政課長

次に、ご質問の4項目め、令和14年度に向けて小中学校の建設が検討されているが、学校を建設するにあたり、1学年の児童生徒数を何人と想定しているのかについてお答えします。老朽化する学校施設の建て替え等につきましては、令和6年度に学校建設検討委員会を設置し、これまで計3回の検討委員会を開催し、検討を重ねております。現在、検討中の建設基本構想では、これまで1学年20人前後で推移していた児童・生徒数を、町内の保育所の入所者数が年々減少傾向にあることから、1学年16名前後と見込んでおります。学校施設整備にあたっては、将来に予測される児童・生徒数の減少を見込み、持続的に施設を有効活用できるよう、学校施設と地域のコミュニティ拠点との融合についても検討を深めてまいります。

最後に、ご質問の5項目め、今後、空き家の増加も見込まれるが、空き家対策として町がどこまで関わっていくのかについてですが、個人の財産である住宅につきましては、所有者の責任により適正に管理することが求められています。所有者の死亡や転居等、さらには不動産等の老朽化などの原因により、空き家となるものが多くあります。空き家の状況については、令和3年度に策定した空家等対策計画によると、空き家総数は349件、のうち適切な管理がされており、すぐに利活用可能な状態の物件数は108件です。また、老朽化が進み、倒壊等の危険性が高い老朽危険空き家は、現在、18件であり、年々増加傾向です。

今後、増加が予想される空き家問題に対して、町としては意識啓発、利活用、除却に区分し、対策を講じております。意識啓発については、空き家の利活用を促すパンフレット配布や、町のホームページの広報のほか、固定資産税の納税通知書を活用した適切な管理の呼びかけや、かわもと暮らしと連携した、空き家・空き地バンクによる物件斡旋などに取り組んでいます。利活用については、中古住宅の購入を希望する方向けに、住宅購入助成金、空き家を貸し出す所有者向けに、空き家改修助成金、空き家の売却や貸出しをする所有者向けに、家財撤去等を行う経費を支援する、空き家バンク活用促進事業補助金などをご利用いただいています。除去については、所有者などから相談を受けるケース、自治会などから管理不全の空き家として情報提供をいただくケースがあります。管理不全の空き家については、まずは所有者に文書等で管理を促し、所有者等から相談を受けた場合には、除却費を支援する老朽危険空き家除却支援事業補助金を案内するなどし、除却を促しております。空き家の除去は、費用面の課題等から、ご決断に至るまでに時間を要しますが、万一の倒壊時の被害など地域住民への影響などをお伝えするなど、丁寧に粘り強く呼びかけをすることとしております。老朽危険空き家は、地域住民の安心安全に支障となることはもとより、解決に時間やコストを要することとなるため、老朽危険空き家に至るまでの利用できる段階での取り組みが重要であると考えています。

議 長

高良議員。

5番
高良議員 それでは5項目、1項目ずつちょっと具体的にお聞きしていきたいと思
います。

まず、1項目めの除雪の件ですが、これ18台ということで、その機械を
運転されるオペレーター18名は、すぐに、これは現時点では確保できてい
ると認識してよろしいのでしょうか。

議 長 伊藤地域整備課長。

番外伊藤地 各委託で行っておりますけども、現状はその18台は全てオペレーターが
域整備課長 ついております。現状では熟練されたオペレーターですので、その方たち
によって、今、1日で終了しているというような状況でございます。

議 長 高良議員。

5番
高良議員 分かりました。それでですね、ちょっとお聞きしたいのが、現状今のオペ
レーターの方の年齢的には、どのような年齢層の方が主にされているのか。
例えばこれが、5年後、10年後でも、オペレーターとして運転が可能な方
なのかどうか、ちょっとその辺を教えてください。

議 長 伊藤地域整備課長。

番外伊藤地 オペレーターの話になります。高良議員が一番よくご存知かもしれませんが
域整備課長 が、除雪のオペレーターというのは、運転をしながら除雪の集約作業をしな
くちゃいけないというところで、まずは経験と、あとはそれを積み重ねて熟
練された業で今成り立っているというところでございます。町内の委託の業
者さんにおきまして、やはり年齢構成は高いのかなというような認識でお
ります。企業さんの中でも、まだまちまちではございますが、中には若手の
オペレーターの方も率先してやっておられる方もいますし、そこは業者さん
によってケースバイケースだということでございます。

議 長 高良議員。

5番
高良議員 ちょっともう1つお聞きしますが、今、除雪契約を会社と結ばれて契約さ
れてると思うんですが、これ、なぜ会社でないといけないのか、その辺の理
由をちょっと教えてください。

議 長 伊藤地域整備課長。

番外伊藤地 まずもって、県も一緒ですけども、県の単価を使っていますし、そういった
域整備課長 面で、まずもっては委託業者、要は建設会社をお願いをしておりますし、で

番外伊藤地域整備課長 きれば個人の方でも町としてはお願いができる方法もあるのかなというふうには思っております。

議 長 高良議員。

5番 高良議員 町として個人でもできる場合もあるということでございますので、私が知っている中でも、昔オペをされていた方で、現在はもう仕事には辞められているけども、やっていただければできる方が何人かおられると思いますので、いよいよこの方も高齢で、今から10年後もできるのかという話になれば別ですが、今オペレーターをやられている方が歳を重ねられて仕事をもし辞められるようなことがあっても、その方が個人でも町からお願いされたら個人でも請け負えるような可能なシステム、例えば労災の時どうするのか、事故の時の賠償はどうするのか、いろいろその辺の課題はあるとは思いますが、人手不足ということを解消していくためには、これは誰でも乗せていいというものではないのは、課長がいちばんよくご存知だと思いますので、そういうことがありますので、今、建設業界はたいへんに入ってきてただける若い子がいないというのが現状です。ということは、除雪の技術というのはなかなか後の世代につながっていかないというのが現状であろうと思うので、でも、除雪というのはやっぱりしないと救急車等の緊急車両が来れないとかいろいろありますので、特に雪が降った時は滑って転んだとか、雪ずりの下になったとか、いろんなことが想定できるので、これはやはり、ある程度ということは悪いですが、迅速に対応できるように確保していかなければいけないことだと思いますので、そういう仕組みから考えて検討していただきたいと思いますが、いかがでしょう。

議 長 伊藤地域整備課長。

番外伊藤地域整備課長 ご提案ありがとうございます。そうした中でですね、ちょっと手前味噌になりますけども、地域整備課の職員も令和6年度に2名ほど、新たな建設車の機械も運転できるような資格を取りに行かせました。そうした時ですね、もし委託業者さんで何かあった場合でも、うちの職員で対応ができるようにというところは図っております。今、うちの職員で言いますと、3名の者が資格が持っていますので、いろんなことありましたが、町としても除雪というのは非常に重要なことだと思っておりますので、今後におきましても速やかに行えるよう、また、人員の後継者とかも含めまして、適切に対応していきたいというふうに考えております。

議 長 高良議員。

5番
高良議員 分かりました、よろしくお願ひします。
それでは、続きまして2項目めの、スクールバスの運転手さんの確保の話に行きたいと思いますが、これもさっきのオペレーターと同じ問題でして、スクールバスの運転手さん、これも必ずいていただければ困るのが現状です。今の運転手さんを見ましても、年齢的にかなり、というかややという程度ですかね、高齢の方がおられますので、これが今後5年後、10年後、それと次の質問、ちょっと、後の質問にちょっと重なるんですけども、学校建設の問題もあってこれがどこに学校がつくるのかでまた、運用の仕方というのは変わってくると思うんですが、このスクールバスの運転手さんについては、この先の見通しというのはどのように考えておられるでしょうか。

議 長 名原教育課長。

番外名原教
育課長 先ほどの答弁のほうにもありましたように、やはり確保は難しくなってくる、年々難しくなってくるのかなとは認識しております。今、専用便の運転手の方で6人、今、うちのほうで直接雇用しておりますけれども、やはり平均年齢で言いますと69歳ぐらいになってきまして、年の多い方ですと73歳という方がいちばん高齢の方でございます。そういったところまで順々に運転手の方、順次確保していかなきゃいけないというところで、定年退職された方とか、うちは積極的にお声がけしてですね、そういったところの確保に努めていく必要があるかなというふうに認識しております。

議 長 高良議員。

5番
高良議員 これも、先ほどと同じ話になって、子どもさんの安全ということに関わってきますので、なかなか誰でもいいというわけにはいかないと思うわけですが、採用される基準というか、その面接の内容とか、そういうのはどう判断で採用されておるのでしょうか。

議 長 宇山教育長。

番外
宇山教育長 運転手に応募された方については、総務課におられる川平さんに1度乗っていただいて、運転が適切にできるかどうかというのをチェックして、採用・不採用を決めております。

議 長 高良議員。

5番
高良議員 分かりました。もう1つちょっとお聞きしますけども、実際、募集されて、応募の人数っていうのはどのぐらいあるもんでしょうか。

議 長	宇山教育長。
番外 宇山教育長 議 長	私の記憶では、不採用になった方はおられません。以上です。 高良議員。
5 番 高良議員 議 長	募集された時の応募される方の人数はどうでしょうか。 宇山教育長。
番外 宇山教育長	不足が生じた時には、職安を通じてお願いをしております、最近ですと、1人採用も、若い方ですけど、採用もしております。質問の内容を、もう一度すみません、お願いいたします、すみません。
5 番 高良議員	1人応募を出した時に、それに対しての応えで、私、行きましようかという方が何人おられるか。
番外 宇山教育長	だいたい1人応募すると1人という方で、だいたい目星もある程度つけながら応募もさせていただいたりしております、教育委員会でも先ほど名原教育課長も申し上げましたけど、退職した方で免許を持っておられる方をある程度把握しております、私からも、今度辞められたらお願いしたいという話で、絶えずどなたかにお願いするようなことは普段から気を配っております。
議 長	高良議員。
5 番 高良議員	分かりました。そのように対応されているのであれば、その先々を見て今、対応されてるということなんで、そういう対応をこれからは是非やっていただいて、生徒の皆さんがなかなか登校が大変なことになったというようなことがないように対応してください。 それではこの質問を終わって、次に、3番目の人口減少に限界集落が増加するというこの問題、民生委員さんの問題ですが、先ほどの答弁の民生委員のなり手がなかなか自治会長会議でお話ししても難しいという返答であったということなんですが、これ難しいだけでは済まない問題だと思うんですが、もし民生委員さんがおられない時は、先ほどの答弁にあったように、誰かが代わってやられるようなことができるのでしょうか。ちょっとその辺をもう一度ちょっとお願いします。
議 長	高砂健康福祉課長。

番外高砂健康福祉課長 民生児童委員の改選、3年に1回ということで、年々どうも状況厳しくなってるなというのは聞いてました。過去、私も担当でやったことがあったので、その頃と比べても今ちょっと、まだまだ雰囲気なんですけど、ちょっと厳しいかなというのは思ってます。平均年齢も70歳、70.4歳になります。ただ年齢によっては、もう75近い方もおられたりするので、やっぱりまずは、やっぱり民生児童委員というのはその地域のためにいかに貢献したいかということですので、まずはそういう気持ちを尊重して現役で続けていただける方は、とにかく続けていただくように促していく。それはやっぱり、その地域から出ておられる方なので、地元の自治会のほうでしっかりとバックアップしていただくような形で出させていただきたいということを思ってます。そうした上で、それでも、本当に自治会ごとで、かなりその環境が変わってるのも分かってます。ですので、そういった本当に今おられないところについては、また、うちやら民生委員協議会とちょっと話をしながら、何とかその地区で出せないかということろは、まず検討していこうかなと思ってます。それでもいよいよやれない状況については、また、いろいろと思う部分あるんですが、できるだけ欠員のないように取り組んでいきたいとは思っております。

議長 高良議員。

5番 高良議員 今、70歳というような話でございましたが、高齢に、私も人のことは言えないわけですが、私もちょっと病気をしてからいろいろ思うことがありまして、例えばその民生委員をされてる方が入院された時、そういう緊急の場合の対応は、どのような、今の答弁にあったような、役場で対応するのか、民生委員協議会で対応をするというような対応の仕方は、マニュアルはあるわけでしょうか。

議長 高砂健康福祉課長。

番外高砂健康福祉課長 現実には、ちょっとそういうケースが昨年度からちょっとありました。そういうところについては、ちょっと民生委員協議会の方で、社協が事務局やってるんですが、いろんな見回りとか、そういったことについては社協で取り組んでもらったりしてるところもありますし、近くで、他の地区の民生委員の方にちょっとお願いをしてやってもらっているケースもあります。今の現状はそういうところですよ、はい。

議長 高良議員。

5番 高良議員 はい、今、自分が困った時にお願いする、あるいは相談することなんで、これ私の想像ですが、全く知らない人にお願いするのも結構ハードルが高い

5番
高良議員

のかなあと、遠慮、困った方が、困っておられる方が頼むのを遠慮されるような事案もあるのかなあと感じるわけですが、その辺のところはどうでしょうか。

議 長

高砂健康福祉課長。

番外高砂健康福祉課長

すみません、そこら辺の相談のことなんですが、社会福祉協議会の方で、年間通して総合相談の窓口をやっておられます。ですので、民生委員の事務局も兼ねておりますし、そういったところを利用していただきながら、やっぱり一番話しやすい環境は地元の方だとは思いますが、そこら辺、自治会通してでも相談を出していただければ、そういったところで対応できれば、と思っております。

議 長

高良議員。

5番
高良議員

皆さん生活されているわけで、その中の困りごとがあった場合、その自分で動かれる方は自分で対応される、先ほどあったように地元の方が協力してというような自助と共助、ここは動いとる時はまだいいかもしれませんが、これが全く対応できないというような、私、これ人口動態のこの町の持っているわけですけど、これを見るととてもなかなかもう限界集落で、これは対応できないなというようなところも見受けられます。そういう時は、本当に困った時は行政が手を出す公助ということまで踏み込んでいく考えがあるのかどうか、その辺をちょっと教えてください。

議 長

高砂健康福祉課長。

番外高砂健康福祉課長

まずは、民生委員協議会の方でちょっとそういうことをしながら、実際に本当にいろんな困ったケースについては、うちの方も入り込んでます。それと、民生委員さん自身、役割として民生委員さんが全部抱え込んでするのではなくて、やっぱりそういう必要な関係機関へつなげるというのも1つの役になってます。いうことと言えば、行政の方へつなげていただければ、行政の方で対応するものはしていきたいと思っております。

議 長

高良議員。

5番
高良議員

皆さんよくご承知だと思いますが、こういう今の人口配分で高齢者が非常に多いと、これ5月12日にもらったやつですけども、人口の年代数のバランスを見ると、非常に30代、40代少ない。50代も少ないというような中で、高齢者は何百人という単位です。これはゆくゆくですが、今すぐとは言いませぬけども、なかなか難しいことが起こってくるのではないかと想像

5番
高良議員 します。その時は、なるべく地元で解決してほしいかもしれませんが、どうしても行政側が関わっていくことが必要になることが出てくると思われますので、その時は、いろいろあるかもしれませんが、ためらわずに手を差し伸べていただきたいと思います、いかがでしょう。

議 長 高砂健康福祉課長。

番外高砂健
康福祉課長 決して行政が投げとるというわけではなく、やっぱり地元でできることは地元でやっていきたい、これは昔からのスタンスだったと思います。ただそれができなくなっているっていう現状も十分把握はしています。ですので、そこは、ほんと自治会によって状況もかなり違うと思っております。そこは、その状態を見ながら、行政として支援していくことはしっかりやっていきたいと思っております。

議 長 高良議員。

5番
高良議員 分かりました。皆さん、生活に困っておられる時は、行政のほうで、自助、共助は大切ですが、それができないときは、行政のほうでしっかり手を差し伸べて皆さん生活してできるようにしていただきたいと思います。

続きまして、学校建設のほうの問題に移りたいと思いますが、答弁にもありましたが、学校建設検討委員会でその人数的なところも含めて考えるというてはおられました、今の保育園の園児数の話が出ました。ただこれ、今の保育園の園児数は、令和14年のときにはもう7歳年をとってるわけですよ。それを、その後のまだ生まれてない子どもの推計というのは、どのように考えておられるでしょうか。

議 長 名原教育課長。

番外名原教
育課長 今回の学校建設検討委員会の方を、昨年度設置いたしまして、今検討を進めているところでございますけれども、今その中の資料の中では、令和12年度までの資料、児童・生徒数の資料をもとに話の方を進めておるところでございます。人口の推移につきましては、今ちょっと生まれておられる、実際に生まれる方の児童生徒、子どもの数を想定しての今の推移のほうを資料として今検討しているところなんですけれども、実際には人口推計、社人研とかの人口推計の部分でいうと、やはり右肩下がりになってくるというふうには見込まれておりますので、そういったところも含めて検討していきますけれども、実際のところ今の数字で言いますと、令和12年度の子どもの数を推定しながら、想定しながら、今検討を進めているところでございます。

議 長 高良議員。

5番
高良議員 まちづくり推進課の伊藤課長が頑張られて、例えば定住の若い皆さんが増えて、子どもがぱっと増えた、とういうようなことが起こる可能性はないのでしょうか。そういう話では、今後の定住、少子化対策、あるいは定住促進の対策等とまちづくり推進課と、そういう話はされたことはあるのでしょうか。

議 長 宇山教育長。

番外
宇山教育長 はい、先ほど、14年は16人程度と申し上げましたが、当初、第5次の総合計画では約20人をずっとキープするように頑張っていこうという話をしておりました。いろんな、今、学び合いに力を入れておりますけど、事業を行っていく上でも、いろんな実技を行っていく上でも、やはり20人が一番、最低でも20人はいた方がいいだろうということで、20人を目標にしておりました。

川本の強みと、もっともっとしないといけないと思うんですけど、学校給食費無料となりました、保育料も無料です。医療費も無料です。もっともっとその辺を表に出して、子どもたちと一緒に住める住宅がもっと建設できれば、私は川本に住みたい、住んでみたい、川本に住んで、例えば大田とか江津とか、広島にも行けると思います。住んで、子育てをしながら、他の地区で仕事をするという方法もあると思います。私はその辺のところをもっともっと、いろんな課と協力しながら、人口が増えるように、子どもが増えるような施策を強くしていく必要があると思いますので、横軸をしっかりとりながら、まちづくり推進課と連携をとりながら、かわもと暮らしと連携をとりながら、その辺の定住、Iターン・Uターン、それから定住の人数をもっともっと増やしていければというふうに思っております。

議 長 高良議員。

5番
高良議員 是非ね、そうしていただきたい。これは私も思ってるんですが、もう今から、人口減少も踏まえて子どもの数を減らさないようにするというのも、もうこの川本もこの状況では、1つの課ではまず無理だと思います。いろんな課が手を取り合って、あるいはいろんな組織が手を取り合って、そのまちづくり推進課も教育課も、例えばあそラボとかですね、そういう関係するところが全部手を取り合ってやっていかないと、かわもと暮らしさんも当然入っていただいて、そういう連携の中で住む家のこともあれば、何も全部連携してきますんで、そういうことを含めて私はやっていく必要があると思います。邑南町が、日本一の子育て村ということで言われますが、これは実際は川本の方が、はるかそういう制度面では上をいっております。邑南町さんは、日本一の子育て村を、最後に「目指して」というのがついている。目指して、なってるわけではない。でも川本は、それより上の制度がもう動い

5番
高良議員

てますので、そのようなところをしっかりとPRしていただいて、9日にも行ってきましたけども、あそラボさんなんかは、大学への総合選抜型の支援とか、非常によくやっておられますので、そういうのもPRの材料に、当然、子どもを育てるうえにおいてはなりますので、そういうところと一緒に連携して、その情報発信をもっともっと、邑南町さんみたいにうまくやってほしいんですが、その辺はいかがでしょう。

議 長

伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤ま
ちづくり推
進課長

ご指摘のありました子育て支援、それから教育、こういったところ川本の方もですね、もっとPRできるのではないかと、いう意見だったと思います。正にですね、私もそう感じておまして、先ほど子どもの数がですね、20人目標にしているものが16名になったということで、私自身も本当に責任を感じています。やれることはやるつもりでですね、取り組んではおるんですけども、まだまだそういった結果としてですね、人数が減ってるという事実がありますので、子育て支援・教育、そういった川本の魅力をよりですね磨き上げるような施策、それから今日、中平議員のご質問にもありました、また全協の時にも説明しました働く場、そして先ほど教育長の方からもありました住まい、たくさんの課題もありますけども、そういったものをしっかり横串を刺しながらですね、あとプラスですね、本当に私、来年度に向けて、来年度だともう遅いと言われるかも知れませんが、予算のことを考えると来年度に向けてですね、情報発信、町のプロモーション、PR、そういったところをですね、いろんな意味で今マスコミ等も注目していただいておりますので、そこへ向けてですね、何か議員の皆様のご提案いただいたものを参考にしながらですね、しっかりと川本町をアピールして、子どもたちを何とか20人に戻せるような取り組みを、これも教育長の発言ありましたけども、横串をしっかりと刺しながら、役場だけでなく外の団体関係者を含めてですね、議員の皆様とも、もしかしたら横串を刺ささせていただきながらですね、何とか20人の目標に近づけるように努力していきたいと思っております。

議 長

高良議員。

5番
高良議員

分かりました、この問題は、今からやるからすぐ答えが出る問題でないのは重々承知して私も質問をしております。ただ、やり方として、今回ですね私が思うのは、フィルティーズさんがきて立ち上げて、若い子に来ていただいて、今までどちらかというと、この川本町のPRというのは、目線が若い方の目線ではなかったのではないかと私はちょっと感じております。フィルティーズさんの活動を聞いてもいろんなPR活動とか、いろんな活動に参加されておりますので、そういう外から来た若い子の目で見えた川本町のPR発信の仕方っていうのちょっと参考にさせていただいて、今からは、先ほど伊藤

5番
高良議員 課長が言われたとおりのことを私も思っておりますので、その辺の若い方の斬新な感覚といいますか、私らはもう過去の間人ですから、そういう目で川本町の発信をしていっていただけたらと思うんですが、それは可能ですよね。

議 長 伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤ま
ちづくり推
進課長 はい、可能かと言われると可能だと思っておりますので、いろんな可能性を広げてですね、皆さんの期待に応えられるように、しっかりと情報発信していきたいと思います。

議 長 高良議員。

5番
高良議員 それではよろしく申し上げます。
続きまして、最後の空き家の増加ですが、これはちょっとこの間も天神町の方でちょっと問題などがありました。こういうことにならないような対策をしていかなければいけないと思ってこの質問を出したわけですが、令和3年でしたかね、空き家の数が出ておりましたが、だんだん老朽化して危ない住宅が増えつつあるということでしたが、空き家についてこれ固定資産税の納税通知書を送る時に、そういう管理の呼びかけ等をしているという答弁でしたが、これもっと他に何かないんですかねと私は思うんですが、ちょっとそこで1つ言いたいのが邑南町さんですが、家屋敷課税というのをやっておられるわけですがこれ、ご承知でしょうか。

議 長 瀬上総務財政課長。

番外瀬上総
務財政課長 すいません、私は知っておりませんでした。

議 長 高良議員。

5番
高良議員 これですね、地方税法294条第1項第2号だそうです。
後からこれ差上げますんで、これ多分、去年か一昨年、去年ぐらいに始められた制度だと思うんですが、例えば、この川本だったら、川本に家があって、外に出ておられる方は、この家屋敷課税で町県民税均等割4,500円、内訳は町税3,000円、県民税1,500円だそうです。このような形で税金をかけておられます。そうすると、これは空き家を持つということは負担になる、多少ですけども負担になると。そこで、税金がかかるならというような取り組みができるのではないかなと、私が勝手に、邑南町さんにこの目的を聞いたわけではないので、はっきりはしないわけですが、この川本においても何も自分が使っていないところで税金がかかるのであれば、例え

5番
高良議員 ば放したりとか、先ほどあったように支援がありましたよね、家財撤去等の経費を支援する支援がありますので、そういうのを含めてPRしていただいて、その税金もかかりますというようなことがあれば、少しでも対応が早くなるのではないかなと私が思うんですが、こういう取り組みはいかがでございましょう。

議 長 瀬上総務財政課長。

番外瀬上総
務財政課長 はい、今、議員ご指摘の、空き家をつくらないというか、そうなる前とかその除却とかを進める方策のことをおっしゃったのだと思います。先ほど申しましたように、新しい課税制度について、私まだよく知っておりませんので、それが効果的であるのであればですね、検討も含めながらそういったものを何か方法の1つの手段として考えたいと思います。

議 長 高良議員。

5番
高良議員 天神町のような例が今後増えないように、道路が使えなくなるというのは、大変、皆さんの生活にとっても不便でありますし、また、先ほどありました緊急車両の進入とかどうのこうのいろいろ支障が出るのが考えられますので、この空き家の対処についても町が積極的に関与していただいて、皆さんの生活に支障が起らないように対応していただきたいと思います。

ということで、今までいろいろ述べてきたわけではございますが、丸山知事が島根創生計画というのをやっておられまして、野坂町長が、町長第1期当選時は、川本町が率先してそれをやっていくんだ、というようなことを当選会見で述べられておりました。また、この間で、今回の去年の時には、この人口減少対策が一番の課題だと、これも町長が述べておられました。それを踏まえて今まで皆さんやってこられたと思うんですが、野坂町長、町長の思いをもう一度、お願いします。

議 長 野坂町長。

番外
野坂町長 この人口減少という課題はですね、非常に、国にとりましても、県にとりましても、そして基礎自治体たる私たちですね、町にとりましても極めて重要な課題であります。先に報道がありますように、少子化もですね、想定を超える以上の少子化状態にあります。こうした中でですね、私たちどういう行財政運営をしていくかということに、まずはですね、今日、全体のですね質問はですね、これやはりシュリンクしていく時の行政の関わり方のことをお尋ねになったんだろうなと思います。私たちに課せられたのは、最小の経費で最大のサービスをいかに提供するか、そしてですね、それはですね、特にシュリンク時はですね、見直しが遅れると後手に回ると。代表的なのはこ

番外
野坂町長

ないだのですね埼玉県八潮市の水道管が破裂、耐用年数を越えたものを、あんなものをずっと放っていたみたいなこと、やはり不断の見直しをした上にさらにですね、議員ご指摘のとおりですね、5年、10年先を見た上で、今の仕組みでできないのであればですね、オペレーターの話もですね、そういう形でのことを想定してはどうかという、そういう提案だったように思います。

こうしたですね全体とらまえたご指摘の中で、私自身はですね、やはりですね就任に当たりまして、とりわけこの度2期目をですね迎えということで、迎えております。今、やはりですね、これはですね、やっぱり人に着目して、人口減少対策、減少ですから、いつも言うことですが、ディフェンスになりがちですが、それをですねいかに、ディフェンスに迫られるようですがオフenseに取組むかということであろうかと思ひます。やはり1つはですね、新しい人の流れを呼び込むということで、おかげをもちましてフィルティーズがですね立ち上がりました。ただし、安定化に向けてはまだまだ課題があります。思ひとしてはですね、こういった動きをすることで、今の人口、ピラミッドをですね、将来の人口ピラミッドの形を変える手を今から打っておくと、5年、10年、20年先を見てですね、そういうことであろうと思ひます。その先例が、島根フィルティーズであり、さらに今日、議論のありましたですね、いろんなですね雇用をですね応援する仕組みでもって、そういう動きをやっていくということであろうと思ひます。さらに今年、並行してですね、手がけようとしているのが、新しい人の流れづくりと同時に、次代を担う人づくりということで、ご理解いただいております、交付金も内定をいただいた、高校段階のですね人材育成、さらに小中学校段階のそういったことも、今検討を指示しているということです。全体をとらまえてはですね、いつも言ひますが定住住宅、そしてですね、それから島根中央高校のしまね留学、そして地域おこし協力隊でもって、今の人口減少カーブは推定よりもこうですね、少し緩やかになってる、たまに社会増も出た年もあるということで、単年度単年度、まず自然減はやむを得ませんが、社会増をいかに呼び込むかということに注力しながら、その延長で、将来の人口ピラミッド変えた上でですね、そういうことがイメージできる手をですね、今、打ちたいと、このように思ひております。今日ですね、議員のご質問もですし、今日全体ですね皆さん方ですねいただいたご意見も踏まえてですね、より一層私自身はですね、テーマとしてはディフェンスになりそうなテーマでありますけど、よりオフenseな姿勢で向かっていって、今日いただいた全てのご意見をですね、しっかり反映して人口減少対策、どこにもないですね、全国この町にしかない人口減少対策、これをしっかり皆さんと実現していきたいと、このように考へております。

議 長

高良議員。

5番
高良議員

分かりました。川本町、この人口が少ない町だからできることが実際あるんですよね。例えば、川本町、小中学校エアコン入れるのが早かったですね。よそはまだできない。小学校の数がいっぱいある市、中学校の数がいっぱいある市は、一気にできないわけですね、財政的なことがあって。ただ、この町は一番早かったです、すぐできました。やっぱりそういう、これは、本当は学校が少なくて困ってるんだけども、そういうことは早いんだよってというのはこれは、うちは環境は早くよくできますよというPRにもできることなんです。そういうことも外に出していかなければいけない。人口が少ないからできることもある。鶏口牛後という言葉がありますけども、うちは小さいから自分で勝手に向かっていかれるというところもあると思いますので、そういうことを考えて、みんなで一緒に取り組む必要があると思いますので、皆さんのお知恵を出していただいて、頑張っていこうと思います。どうもありがとうございました。これで、一般質問を終わります。

議 長

以上で、高良議員の一般質問を終了します。

々

これをもちまして、本日の議事日程はすべて終了しました。

々

本日は散会とします。

々

お疲れさまでした。

(午後2時39分)

この会議録は、川本町議会事務局長 中嶋 則行 が記載したもので、その内容におい

て、正確である旨を証するためここに署名をする。

川本町議会議長

川本町議会議員

川本町議会議員